

早期血管老化の世代別有病率と関連因子の検討

【代表者】 杉原 志伸 島根大学 保健管理センター松江 准教授

【共同研究者】 武田 美輪子 島根大学 地域包括ケア教育研究センター 特例研究員
李 セロン 松江工業高等専門学校 情報工学科 助教

【研究の目的と内容】

目的：

血管の動脈硬化は加齢とともに徐々に進行するが、その生理的变化を超えて急速に動脈硬化が進行する「早期血管老化（EVA）」の病態が近年報告され、心血管疾患の高リスクであると判明した。海外のコホート研究では EVA の有病率は全対象者の 1 割程度と報告されているが日本では EVA に関する報告はほとんど認めない。本研究では EVA 世代別有病率を調査し、背景因子との関連を検討する。

内容：

対象者を世代別に設定し、健康診断結果に加えて動脈硬化検査を施行し、関連を検討する。

対象者

- ①若年者：島根大学松江キャンパス在籍学生
- ②中年：島根大学松江キャンパス在籍教職員
- ③中高年：島根大学地域包括ケア教育研究センターが企画・運営する健康調査 Shimane CoHRE Study の対象者

検討項目：

- ①動脈硬化検査（PWV、頸動脈エコー）
- ②定期健診時の身体所見（身長、体重、BMI、血圧、脈拍、腹囲）
- ③生活歴（食事、運動、睡眠、喫煙）、既往歴、家族歴
- ④大学生以外は健診時の血液検査、尿検査

【研究の成果（本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等）】

令和2年3月現在で以下のデータの回収は終了した。

若年者：大学生（42名）、中年：教職員（31名）、中高年：shimane CoHRE study（2,320名）
大学生の解析では42名中、肥満者である27名を対象に動脈硬化検査と生活指導を行ったところ、13名が減量に成功し、14名が減量不成功であった。2群間では動脈硬化指標に有意差はなかったが、肥満持続歴や性格傾向に差が認められた。

今後、全体的なデータの解析や考察を進め、令和3年3月を目途に日本循環器学会での学会発表や論文作成を行う予定である。